

ELC レシテーションコンテストに参加 もらったアドバイスが結果につながる

▶レシテーションコンテストに参加した部員たち



木田さんがGrandPrize受賞



速報新聞

キマグレ

発行所
彦根東高等学校

新聞部

彦根市金亀町4番7号

2月18日に滋賀短期大学にて第23回フレンドシップカップレシテーションコンテストが開催され、本校ELCから初心者部門、経験者部門の2部門にそれぞれ3人ずつ、計6人が参加した。

初心者部門には1年生から中村陸人君(1-3)、岩田真依さん(1-5)、森下ひかりさん(1-7)の3人が、経験者部門には小島暁君(2-4)、寺村紬さん(2-4)、木田優衣さん(2-6)が出場し、発表した。そのなかでも木田さんは最優秀賞のGrand Prizeを受賞した。

今回のコンテストは本校ELC内での参加希望者が例年より多かったため、校内予選が行われたようだ。木田さんは予選を「まず校内予選を通らないと本末転倒なので、選ばれるために真剣に取り組んだ。選ばれたときは『先生方が私を選んで正しかったと思えるような発表をして、優勝したい』と決意した」と振り返った。

ただアドバイスを『待つ』だけでなく『もらいに行く』ことを意識して、去年最優秀賞を受賞した先輩直伝の『鏡前練習』も毎日した」と打ち明けた。

またコンテスト本番を「オーディエンスの反応も良く、『英語を人前で話す人』としてでなく、『ストーリーテラー』として悔いのない発表ができた。中学三年生のころからこのような大会に参加していたが、毎回周りの人から刺激を受け、上手くなっていくのが楽しくてやめられなくなっていたことと、今まで優勝ができていなかったことがモチベーションのもとになっていた。だからやっとなり優勝することができて、努力は必ず報われると実感できた。多くの先生方や家族にたくさん時間を費やしてもらったので本当に感謝している」と喜びを表した。

最後に木田さんは英語が苦手な人に向けて「歌や映画などの興味があることに英語を取り入れて、親しみを持つきっかけにすればいいと思う。苦手だと決めつけず、気楽に楽しんで英語に触れていけば自然と親しみを持てると思う」とアドバイスした。